京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク「モア」

2008/06/12

モア通信 NO.02

〒601-8007 京都市南区東九条北河町5
TEL 075-681-2721 FAX 075-681-2722
E-MAIL kyotomorenet@guitar.ocn.ne.jp

長くやり続けることでしょうか

この言葉は日本でも活躍し、若者に人気のある韓国出身の女性歌手ボア（BOA 22歳）が、成功の秘訣はと聞いた雑誌のインタビューに答えていった言葉です。還暦まじかの身にとっては「小娘が何を解って、年寄りのような言葉を…」とその時は思いましたが、後に、彼女は16歳でデビューして以来7年間の芸能活動期間があることを知りました。22歳の女性にとって、7年間は重い意味があったことでしょう。

さて、2006年3月に「京都モアネット」が設立されてから2年と3ヵ月がたちました。9月に事務所ができ、「外国人福祉委員」の活動が始まってから1年と8ヵ月になりました。事務局に一日6時間の常勤スタッフを置くようになってからは11ヵ月が過ぎたところです。

運営委員として活動に係わっていると、足りないことにばかりに目がいってしまい、問題点ばかりを取上げてしまいがちでしたが、ボアの言葉に目が醒め、冷静に振り返れば、短い間にしては、未熟ではあっても、かなりのことをしてきたといえます。

モアはまだ始まったばかりです。

2年目の活動に入って相談件数は増加しましたが、相談者から直接モアネットに連絡してくるケースは少なく、多いのは民族団体やエルファからの依頼と介護事業所・介護施設・福祉機関からの依頼ケースでした。介護福祉関係からの依頼は、通訳、外国語の話し相手のボランティアを求めるなど具体的なものでしたが、そこから透けて見える外国人高齢者の「孤独」に胸が痛まずにいられません。相談者は、悩み・不安・怒り孤独感を抱え、重い背景に外国人福祉委員もなす術を知らず、聞くだけに終わってしまうことも度々ありました。

2年目の活動を振返ると、いま重点的に取り組むべき課題があります。

一つ目は、相談を受けて動くのではなく、アウトリーチ（訪問活動）に力を入れる必要があります。

二つ目に、活動する機会の少なかった外国人福祉委員に、もっと活動してもらえる方法を考える必要があります。もともとボランティア活動をする意思があって登録された方ですから、これは事務局が負うべき責任が大きいといえます。コーディネイト能力の不足、情報伝達不足、フォローアップ不足を克服していかねばなりません。これは外国人福祉委員制度が機能し、定着できるかどうかの重要なポイントです。

三つ目に、福祉専門職との協力関係を強化しなければなりません。外国人福祉委員では対応困難なケースがたくさんあります。メンタルケアやソーシャルワークが必要と思われるのに、つなぐ先を見つけられなかったケースです。外国人の問題に対応できる専門家は福祉事務所にはいません。これは、専門職との協力関係ではなく、専門家の育成を考えるべきなのでしょう。

四つ目に、不得意な分野を補助しあう、外国人支援ネットワークの構築に協働する必要があります。モアネットは在日コリアンを中心に立ち上げ、統計上支援する高齢者・障がい者は在日コリアンが大部分だと予測していました。しかし、相談件数が増えるにつれ、それ以外の外国人相談件数が増えつつあります。

2007年末に外国人登録者は213万人を越え、中国籍が在日コリアン（特別永住者43万・一般永住15万）を越えました。日本で80年以上もコミュニティを形成してきた在日コリアンが、助け合いのコミュニティ形成の模範を示す義務があるように思います。

「まず走れ、問題は走りながらなおせ、無いものは走りながらつくれ」と始めた活動でしたが、長くやり続けるために、「どこに向かって走るのか」と「走りながら見つけた問題」にどう対応するのかを、まずはしっかりやり遂げ続けて行きたいと思います。そして、我々もいつか「成功の秘訣は、長くやり続けることでしょうか」といいましょう。

外国人福祉委員活動報告

外国人福祉委員〔訪問・見守り・相談受付等〕２００７年４月～２００８年３月３１日の活動実績報告

昨年からの念願であった事務局常勤スタッフの配置が実現し、７月２１日から毎週(月)～(金)１０時～１６時まで、常勤スタッフを配置することができるようになりました。

相談件数は、京都モアネット関連団体を通じた相談を含め、約４４０件あり、モアの外国人福祉委員が独自に対応した件数は、２２０件になりました。

〈活動における問題点と課題〉

①外国人福祉委員を見守りや傾聴に派遣する２００７年度の計画は、訪問回数の数量は増えたものの、民族団体や福祉事業を行うNPO法人に属する外国人福祉委員に極端に偏った活動になってしまいました。

当初の計画に反して、訪問活動が、相談のあった対象者に限定され、対応に追われたことが原因でしたが、今後に大きな課題を残しました。

②訪問対象の相談内容が難しく、外国人福祉委員とコーディネイトできるケースは少なかった。相談内容が難しいと外国人福祉委員も消極的になったりするので、誰もが活動しやすい形態（安否確認・声かけ見守り・傾聴など）を積極的に進める必要があります。

③活動の機会がなかった外国人福祉委員に対するフォローアップが不足していました。

④外国人福祉委員相談呼びかけポスターの反響は、予想に反し在日コリアン以外のところからも出てきました。中国語・英語などでの対応を迫られましたが、モアネットでの対応は限られており、京都の外国人（語）支援活動グループとのネットワークの組織化が急がれることを痛感しました。

⑤通訳・福祉サービス情報提供・介護問題・法律相談などは具体的支援に結びつけ易いが、相談のうち半数以上は具体的支援策を見つけ難いのが現状です。

	2006	2007
相談件数（既存団体・非営利活動からの依頼を含む）	186	434
内モアネットで相談対応	72	220
①情報提供・安否確認・傾聴などの精神的安定	13	29
②認知症高齢者の医療・生活・介護	20	15
③通訳	4	15
④医療通訳	2	22
⑤言語・異文化によるコミュニケーション問題	15	32
⑥文化生活習慣問題	5	41
⑦歴史的背景と分断から派生する法的問題	3	23
⑧社会保障・所得保障問題などからくる問題	6	25
⑨差別問題	2	7
⑩その他の生活相談	2	11

※　相談内容の分類については、活動開始当初に便宜上分けたものであって、活動二年目の現在では、適正なものとはいえなくなっています。

支援活動のあり方についての研究活動を通じて、モアネットの相談支援活動に相応しい分類の仕方を理論的に整理する必要があります。

〈相談事例・あなたならどうする〉

実際の相談事例をいくつか紹介します。あなたならどう支援しますか？　考えてみてください。

①１０年前に日本人男性と結婚して京都に住んでいる。今、あんまの資格を取って働いているが、夫とのコミュニケーションがうまく取れない。夜寝られないことが多いし、仕事も何とか出るのが精一杯、しんどい、気持ちがしんどい。〔４０代後半のコリアン女性〕

②近所に空缶集めをして何とか生活している在日高齢者の女性（７０歳）がいる。空缶集めは重労働で、だんだん体が悪くなってきているようで、その仕事を続けるのは難しい状態になりつつある。このような人が生活できる仕事や、生活の保障ができる方法や、そのような所はないのか。〔年齢不詳の日本人女性〕

③自分の夫が労働災害にあい入院後、今年に亡くなった。存命中は労働災害保険を受けていた。夫がなくなってから、夫の労災で葬祭費や遺族給付が出ることを知った。今から申請してもらえないか。〔７８歳コリアン女性〕

④デイサービスを利用したいと役所の窓口に行ったら、介護保険料を滞納しているので、すぐに利用できないと言われた。最初は払っていたが、利用もしてないし、家計が大変で払えなくなった。〔コリアン夫婦（８３歳、８０歳）〕

⑤夫が３１歳のとき亡くなったが、それまで７年間会社で厚生年金に入っていた。亡くなる一年前に病気で会社を辞めたが、病気の初診日は年金加入中だった。亡くなった時に遺族として母子年金はもらえなかったのか。今では無理か。１９８２年国籍条項撤廃も８６年のカラ期間のことも知らなかった。自分も結婚前に厚生年金に数年入っていたのに、続けて加入できる方法はなかったのか。〔６３歳在日コリアン二世女性〕

⑥介護施設に入所されてるアメリカ人女性（９２歳）が、認知症の為、英語でしか話せなくなった。施設で

は英語を話せる職員がいないため、話し相手もいず寂しいので、英語が出来るボランティアを派遣してほしい。〔左京区の介護施設〕

⑦入所者の中に日本語のわからない在日コリアンがいる。介護士としては、少しでもその人に母国語で話かけてやりたいと常々思っている。何とかならないでしょうか。〔特別養護老人ホームの看護士〕

⑧フィリピン人妻(28歳)を、日本で仕事を得て生活するために、日本語教室に通わせたい。生活保護を貰っている状態なので学校は無理。安く勉強する方法を紹介してほしい。〔日本人男性〕

⑨在日コリアン女性一世(76歳)が独居で、死にたいくらい寂しく、話し相手になってくれる人がほしい。在日コリアン女性一世(90歳)と医師との通訳のため、病院へ一緒に行って欲しい。〔南区介護施設〕

さて、考えていただけましたか？あなたならどんな支援ができますか？

何ができるかではなく、何かをしてあげたい気持ちが少しでもうまれたら、それは人が生きるうえでとても大切なことではないでしょうか。

外国人は地域で孤立しがちです。福祉サービスの利用もむつかしいことが多いです。

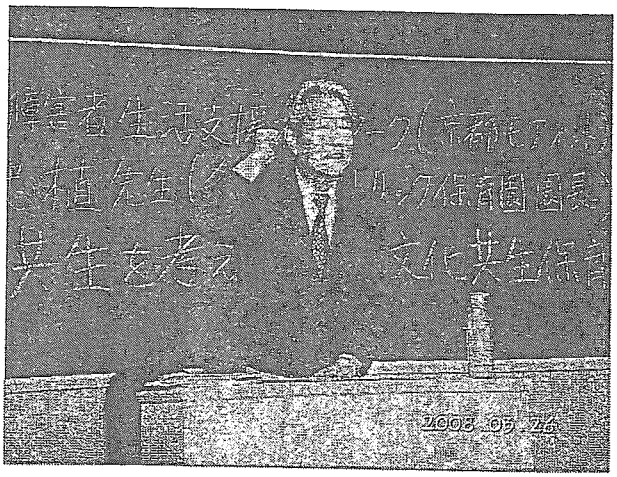
「モアネット」の歩みは始まったばかりです。知ってください。手をつないでください。

どうぞ「モアネット」に、みなさんの力を、少しだけおかしください。

★外国人福祉委員養成講座が変わります。もっと参加がしやすくなりますので、乞うご期待。

共生を考える学習会を開催

地域での共生を考える
～多文化共生保育のあゆみから～



2008年3月26日、京都キャンパスプラザにおいて、講師に東九条の「希望の家カトリック保育園」で長年園長をしてこられた、崔忠植さんを迎えて、共生を考える学習会を開催しました。一般向けには特に事前の宣伝活動をしなかったにもかかわらず、当日は60名もの参加がありました。

希望の家カトリック保育園は、知る人ぞ知る「多文化共生保育」で有名なところで、そのユニークな活動はどのようにして生まれてきたのか大変に興味深いお話が聴けました。

保育園の隣地にある児童公園で、在日の園児が中学生に「朝鮮人は死ね」と脅されている現場に遭遇して以来、若い保母たちが真剣に様々な取り組みを始め、いろんな民族や文化が共生していることのほうが自然なことだと、園児たちが普段の生活の中で受け止めていける環境づくりを始めました。初のころは、父母や近隣住民からの無理解による抵抗や反発がありましたが、今では在日コリアンだけでなく、多国籍のボランティアの協力を得て保育園行事が行われるまでに広がりを見せています。

さまざまな人が住む東九条の町は被差別を体験してきた町、だからこそ、全ての人々が共生・共存の意を確かめ、自らの生を確立していく場として、異質性慎重の社会、人権尊重の社会をつくってこそ、新しい文化創造が始まると、熱のこもったお話をしていただきました。

研究会へのお誘い

「韓哲文化財団」より、2008年度の研究助成金を授与されました。

研究機関は2009年3月までの一年間で、研究目的は、京都において創設された「外国人福祉委員」制度の課題と展望を調査研究することを通して、在日外国人の生活支援の方法と支援組織構築のあり方を提示するところにあります。

①加藤チーム（龍谷大学教授）
テーマ〔生活支援の方法〕

②小澤チーム（立命館大額教授）
テーマ〔支援ネットワークの構築〕

どなたでも参加できます。特に外国人福祉委員の方は大歓迎です。途中からの参加もできますので、ご希望の方は、京都モアネット事務局までお問合せください。

京都外国人高齢者・障害者生活支援ネットワーク・モア

★ 会員募集中 ★

2008年度もよりいっそうの活動を広げてまいります。

会員・賛助会員など、募集しております。ぜひとも、ネットワーク拡大にご協力をお願い申し上げます。

個人会費年額 1,000円、
団体会費年額 5,000円、

郵便振込口座
00990-4-314429

「外国人福祉委員」養成講座

２００７年８月１・２日の二日間、下京区役所において、第二回目の外国人福祉委員養成講座を京都市との共催事業として実施しました。

京都市保健福祉局とは、チラシ・ポスターの作成・配布・郵送、当日の運営と研修の講師を役割分担し、全ての面で協力し合い、順調に進めることができました。

この講座は、京都に暮らす外国人（日本籍含む）高齢者・障がい者の生活支援活動を行うために、家庭に訪問して、傾聴・相談・社会福祉サービスの情報提供や、地域でみまもり等の支援を行う「外国人福祉委員」の養成を目的に開催しました。

外国人高齢者・障がい者の福祉推進の重要な担い手として活躍していただくためには、最小限必要な社会知識及び援助技術の基礎を学ぶことを「外国人福祉委員」には義務付けています。

今回の研修会には４５名が参加し、３２名が「外国人福祉委員」として新たに登録されました。

【第一日目内容】

①オリエンテーション
・本事業の目的について（外国人福祉委員の役割・期待するもの）
・多民族多文化共生をめざして
仲尾宏（京都造形大学客員教授・京都モアネット顧問）

②日本の外国人政策の歴史
田中宏（龍谷大学教授・京都モアネット顧問）

③高齢者の理解
宋仁浩（北山通宋クリニック院長）

④相談援助活動について
・相談支援活動に大切なもの（相談活動から記録・報告・連携・守秘義務について）
叶信治（東九条のぞみの園地域包括センター所長）

⑤高齢者福祉・社会保障制度について
〔京都市保健福祉局長寿福祉課〕

⑥ワークショップ（前半）
鄭明愛（京都モアネット事務局）

【第二日目内容】

⑦障がい者福祉・社会保障制度について
〔京都市保健福祉局障害企画課〕

⑧高齢・障がい外国籍市民の現状
〔NPO法人エルファ職員〕

⑨障がい者の理解
愼英弘（四天王寺国際仏教大学大学院教授）

⑩相談援助活動について
・相談支援活動に大切なもの（コミュニケーションとエンパワメントについて）
加藤博史（龍谷大学教授）

⑪ワークショップ（後半）
加藤博史（龍谷大学教授）

「外国人福祉委員」現任研修

〈女性パワーが活動の源泉です〉

２００７年１２月１４日午後７時より、モアネット事務局の隣にあるエルファの「ハナマダン」において、現任研修として、上半期の活動事例報告と支援活動の方法について、経験交流・意見交換会を開催しました。京都市保健福祉局からの参加も含め２５名（外国人福祉委員登録者は１５名）が参加しました。

現任研修といえば堅苦しく聞こえますが、当日はちゃんこ鍋を囲み、和気あいあいとした雰囲気で進みました。写真でも分かるように、現在実際に活動していただいている外国人福祉委員はほとんどが女性です。

登録者の男女比率は男性が三割ほどですが、活動していただいているのは九割以上が中高年女性です。

モアネットが連携を取っている「きょうと外国人支援ネットワーク」で頑張っている活動家もほとんどが女性ですし、モアでも女性パワーが活動の源泉になっています。

男性がボランティア活動に参加するためには何が必要なのでしょうか、気になります。（モアネットでのテーマではありませんが…）

【内容のまとめ】

―　支援活動の方法について　―

①高齢者の抱える問題を面接を通して知り、何が必要なのかをはっきりさせたり、高齢者本人の不満を受け止めたりする。必要に応じて、心のケアも行う。

②問題を解決するために、さまざまな社会福祉サービスを活用し、それまでと同様の社会生活を送れるように援助する。どのような社会サービスがあるのかを説明したり、どのように組み合わせていくのかを一緒に考えたりする。また、実際に利用している社会福祉サービスが、効果的に行われているかについても、本人の側に立ちフォローする。

③本人のニーズを充足するために不足する社会福祉サービスができるように、活動を通じて作ったり、変えたりする。